第２章　授業で勝負する
第４節　授業記録を読む（付録）

この節は、以下の４項で構成しています。

■授業記録を読む「総合」■

■授業記録を読む「文学」■

■授業記録を読む「説明文」■

■明日の授業を作る■
◎「学びの共同体」を作る
◎【補説】「学びの共同体」をめざして
◎説明文と文学の授業を作る
【補足】2014.1.1
◎「学びの共同体」と「授業のＵＤ化」で子どもたちの学びをつくる
【付録】2014.4.1
◎「島ひきおに」
【付録】2015.1.1　　←　今回の追加分です
◎「イースター島にはなぜ森林がないのか」

■明日の授業を作る■

◎「イースター島にはなぜ森林がないのか」

東京書籍「新しい国語　６年　上」に５月教材として掲載されている説明文です。今回は授業記録ではなく、教材分析と授業案です。

[出典] 本教材は、「生態系を蘇らせる」（二〇〇一年　日本放送出版協会）を底本に、本教科書のために書き下ろしたものである。

題名読み⇓題名から分かること、疑問に思ったこと、詳しく知りたいと思ったことなどを出させる。

筆者は、これからどんなことを説明しようとしているのかが題名に表れる。

イースター島にはなぜ森林がないのか

○一読に要する時間　約十三分

鷲谷（わしたに）　いづみ　文

関　題名に興味を持ち、進んで感想を発表しようとしたり本文を読んだりしようとしている。

本論　課題提示　←→　序論　イースター島の紹介

①チリのイースター島は、首都サンティアゴから西に約三千八百キロメートルはなれた、太平洋にうかぶ絶海の孤島（ことう）である。（P25の地図で位置を確認する）島の面積は約百六十平方キロメートルで、香川県（かがわけん）の小豆島（しょうどしま）と同じくらいの広さである。（地図帳で確認する）モアイ像で有名なこの小さな島は、無数の火口が残る火山島でもある。（P23扉の写真参照）

②現在、この島に森林はほとんど見られない。しかし、島に残る遺跡（いせき）の調査と「花粉分析（ぶんせき）」の結果、ポリネシア人たちが初めてこの島に上陸した西暦（せいれき）四〇〇年ごろには、島全体が森林におおわれていたことが明らかになった。（調査の結果から明らかになった事実）

③イースター島の森林は、なぜ、どのようにして失われてしまったのだろうか。（課題提示文（問いの文））二つの調査の結果から、おおよそ次のような流れであったと考えられる。（推測）

- 火山島　チリ（南アメリカ大陸の南西部にある国。）
- 遺跡　絶海の孤島（遠く陸地からはなれ、海上に一つだけうかんでいる島。）

口中虫書貴遺

遺　イ　花粉分析（地中の土や砂（すな）の中にふくまれる花粉の種類や量を調べ、かつてそこにどんな植物が育っていたかを推測（すいそく）する調査。）

＊～と考えられる

④ 今から約千六百年前（日本ではどの時代か押さえておきたい）、ポリネシア人たちが、それまでだれ一人として人間が上陸したことのなかったイースター島に上陸したとき、島はヤシ類の森林におおわれていた。

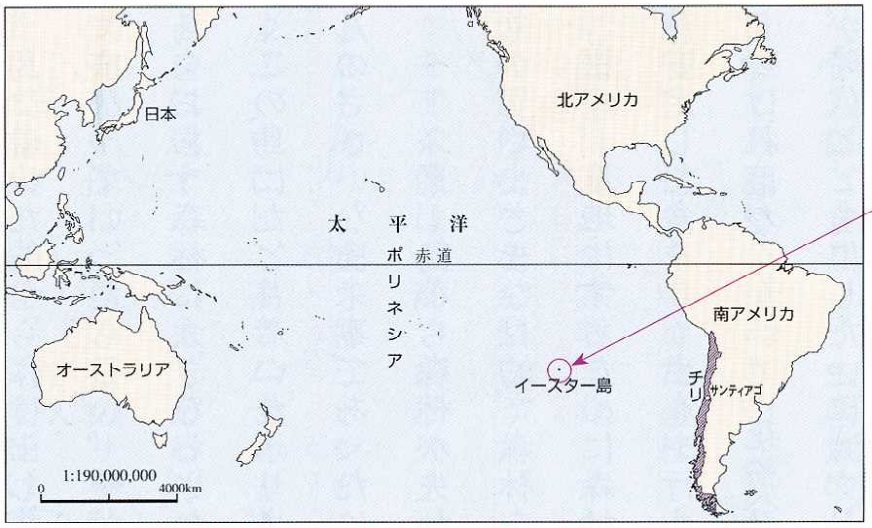
P24 L4「絶海の孤島」

いずれの大陸からも遠くはなれたこの島には、ほ乳動物は生息せず、空を自由に飛ぶことのできる鳥類が数多くすみ着いていた。

⑤ ほ乳動物が生息していなかったのは、太平洋のまっただ中に火山の噴火でできたこの小さな島に、泳いでたどり着くことのできるほ乳動物がいなかったからである。

⑥ ポリネシア人たちは、イースター島にたどり着いた初めてのほ乳動物だったといってもよいのだが、実はそのとき、もう一種類、別のほ乳動物が、ひそかに上陸していたのである。それは、ポリネシア人たちが、長い船旅の間の食りょうとするために船に乗せていた、ラットである。

人間の都合で乗せていたことを押さえる。



本論　島にポリネシア人とラットが上陸した経緯

5　10

• 生息

• ひそか

ラット（大型のネズミ。）

⑦島に着いた船からにげ出したラットは、この島で野生化し、またたく間に島じゅう中に広がっていったらしい。推測 やがて、このラットの子孫が、ポリネシア人たちの子孫と島をおおう森林に大きなわざわいをおよぼすことになる。だが、長い船旅の末ようやくこの島にたどり着いたポリネシア人たちにとって、ラットの船からの逃走（とうそう）など、ほんのささいな出来事であったにちがいない。

⑲⑳段落で述べられている結果の重大さと対比する。意見（確信度が強い）

⑧イースター島から森林が失われた大きな原因は、この島に上陸して生活を始めた人人が、さまざまな目的で森林を切りひらいたことである。

原因の一つ目である。

人間による森林伐採の目的1 ⑨⑩段落

⑨まず、農地にするために森林が切りひらかれた。

⑩安定した食りょう生産を行うためには、農作物をさいばいするための農地を開こんしなければならない。「花粉分析（ぶんせき）」の結果、島の堆積（たいせき）物の中にふくまれる樹木の花粉が時代とともにしだいに減少したことが明らかになっている。

調査の結果から明らかになった事実

人間による森林伐採の目的2 ⑪⑫段落

⑪次いで、丸木船をつくるために、森林から太い木が切り出された。

⑫イースター島が緑の森林におおわれていたころ、森林には丸木船をつくるのに十分な太さのヤシの木がたくさん生えていた。その木を切りたおしてつくった丸木船をこ

5

- 野生化
- ＊～らしい
- 子孫
- わざわい
- 逃走
- ささい
- ＊～にちがいない

10

- 開こん
- 堆積物（風や水などに運ばれて積もった土や砂。）
- 樹 ジュ
  木 木 木 木 樹 樹

いで、島の漁師たちは、サメなどの大きな魚をとらえていたのである。また、島に住む人々は、この丸木船に乗って、島から四百キロメートルもはなれた無人島まで行き、そこに生息する無尽蔵ともいえる海鳥をとらえて食りょうにすることもできた。

食糧の確保

⑬さらに、食りょう生産との関りが深いこれらの目的に加え、宗教的・文化的な目的でも森林がばっさいされた。イースター島では、㉖㉗段落とも関連祖先を敬うために、火山岩の巨石に彫刻をほどこす宗教文化、すなわち、モアイ像の製作がさかんになった。

人間による森林伐採の目的３　⑬～⑮段落

⑨～⑫段落の「農地」「丸木船」

具体的には⑮段落「モアイ像を運ぶ」ため。

⑭モアイ像は、高さが三メートルから十メートルもあり、重さは三トンから十トンにもおよぶ。中には、高さ二十メートル、重さ五十トンに達するものまである。

⑮モアイ像は、島の石切り場から切り出された巨大な火山岩を、のみでけずって作られる。

• 無尽蔵　• 宗教的　• 文化的　• ばっさい　• 祖先　• 彫刻　• 石切り場

宗　シュウ　宀 宀 宗 宗 宗 宗

敬　うやまう　ケイ　艹 苟 苟 敬 敬 敬

写真　アマナイメージズ

そして、ときには十数キロメートルもはなれた所まで運ばれ、てこを用いて立てられた。このモアイ像を、石切り場から運ぶために森林がぎせいとなった。重さが何トンもある巨大な像を運んでゆくのに、森林から切り出された木が利用されたのである。

（やぐら、ころ等、運搬の方法には諸説ある。）

⑯ イースター島では、豊かな森林の恩恵を受けて、高度な技術をほこる巨石文化が栄えた。西暦一五〇〇年ごろには、人口は七千人に達していたと推定されている。

（推測）

（P29L8「過去のものとなっていた」）

⑰ しかし、その繁栄は決して長くは続かなかった。太い木が、切りつくされてしまったからである。

（人間による伐採）

⑱ 森林から太い木をばっさいしたとしても、絶えず新しい芽が出て、順調に成長していたとしたら、森林には常に太い木が存在し、人々のくらしに必要な材木も持続的に供給されたはずである。しかし、イースター島では、ヤシの木の森林が再生することはなかった。

（意見（仮定的に考える））

⑲ 人間とともに島に上陸し、野生化したラットが、ヤシの木の再生をさまたげたらしいのだ。

（推測）

⑳ ラットは、人間以外のほ乳動物のいない、すなわち、えさをうばい合う競争相手も

5

- てこ
- ぎせい
- 恩恵
- 推 スイ　＊～と推定されている
- 推定
- 繁栄

10

- 存 ソン ゾン
- 供 キョウ そなえる ども　＊～はずである
- 持続的
- 供給
- さまたげる

天敵もいないこの島で、爆発的にはんしょくした。そのラットたちがヤシの実を食べてしまったために、新しい木が芽生えて育つことができなかったようなのである。

推測

原因１ ⑧～⑮段落

㉑このようにして、三万年もの間自然に保たれてきたヤシ類の森林は、ばっさいという人間による直接の森林破壊と、人間が持ちこんだ外来動物であるラットがもたらした生態系へのえいきょうによって、ポリネシア人たちの上陸後、わずか千二百年ほどで、ほぼ完ぺきに破壊されてしまったのである。

原因２ ⑱～⑳段落

㉒一七二二年に、初めてヨーロッパ人がこの島をおとずれたとき、島の繁栄も、豊かな森林も、すでに過去のものとなっていた。木は切りつくされて森林はなく、その結果、むき出しとなった地表の土が雨や風に流され、畑はやせ細っていたのである。

P28 L4～5との比較

森林が失われた後の因果関係をとらえる。

㉓農業生産がふるわないだけではない。漁に必要な丸木船をつくる材木がなくなってしまったため、かつてのように、魚や海鳥をとることもできなくなっていたのである。

㉔当然のことながら、島は深刻な食りょう不足におちいっていた。食りょうをうばい合う村どうしの争いが絶えず、島の人口も、最も栄えていたころの三分の一にまで減少していた。

5　10

- 天敵
- はんしょく
- ＊～ようなのである
- 外来動物
- 一七二二年
- 系（ケイ）
- 生態系
- ふるわない
- 深刻

結論　筆者の主張

結論
イースター島の歴史から教えられること

• 文明　• めぐみ　• 健全　• あれ果てる　• 悲惨　• 世代　• 民族　• 早急

㉕ 高度な技術や文明が、豊かな自然のめぐみに支えられて発達したのだとしたら、このイースター島の歴史から、わたしたちが教えられるのは次のようなことである。すなわち、ひとたび自然の利用方法をあやまり、健全な生態系をきずつけてしまえば、同時に文化も人々の心もあれ果ててしまい、人々は悲惨できびしい運命をたどる、ということである。

イースター島では森林の破壊

イースター島では森林の恩恵

イースター島では、食糧不足・絶えまない争い・人口減少→文明の衰退

㉖ モアイ像は、西暦一〇〇〇年から一六〇〇年ごろの間に作られたとされている。祖先を敬うためにモアイ像を作った人々は、数世代後の子孫の悲惨なくらしを想像することができなかったのだろうか。

意見（反語による強調）

㉗ 祖先を敬う文化はさまざまな民族に共通であるが、数世代後の子孫の幸せを願う文化は、それほど一般的ではないのかもしれない。しかし、今後の人類の存続は、むしろ、子孫に深く思いをめぐらす文化を早急に築けるかどうかにかかっているのではないだろうか。

意見（確信度が弱い）

意見（願望・期待）

筆者の主張を強く表した文（要旨につながる文）→この主張に対する自分の考えを持たせるようにしていきたい。

読 事実と意見を区別して、自分の考えを明確にしながら筆者の主張を読み取っている。

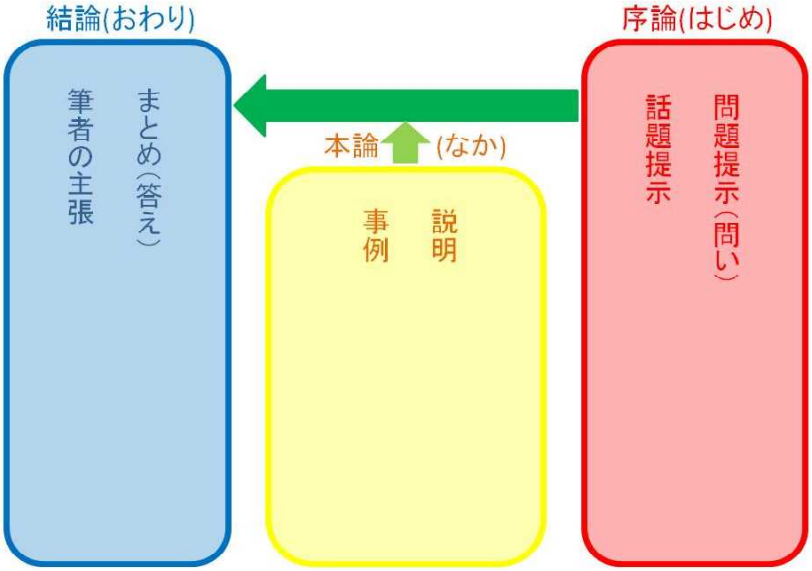
写真　アマナイメージズ

＊～かもしれない

＊～のではないだろうか

指導書(いわゆる赤本)は、文章全体を４つのまとまりに分けることからスタートする。

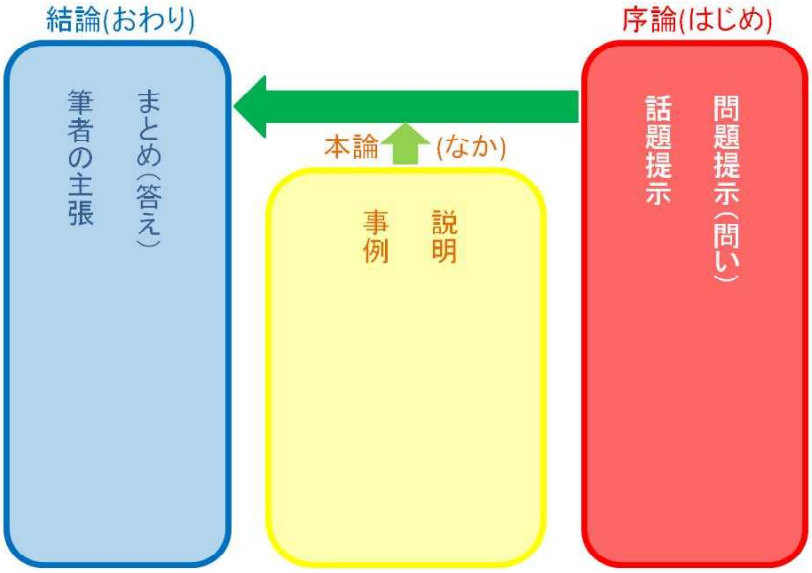
対して私は、「三段構成」を繰り返し指導していく立場から、「序論(はじめ)」「本論(なか)」「結論(おわり)」に分けるべきだと考える。そして、「本論」部分を読む時に、これを２つに分かればよい。



「序論」には、「問題提示(問い)」や「話題提示」の文が含まれる。

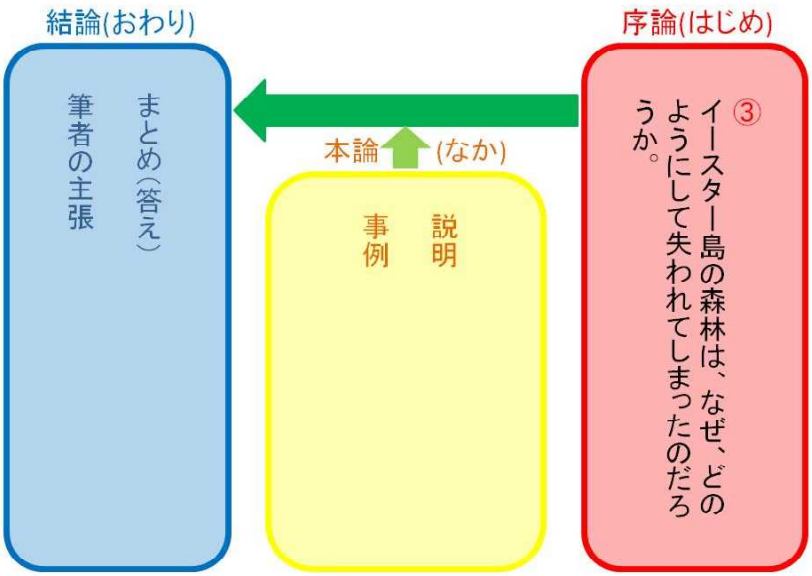
指導書は、②段落に話題提示があるという立場。私は、③段落に問いがあるという立場。――この立場の違いが、序論と本論の区切り方の違いになっている。

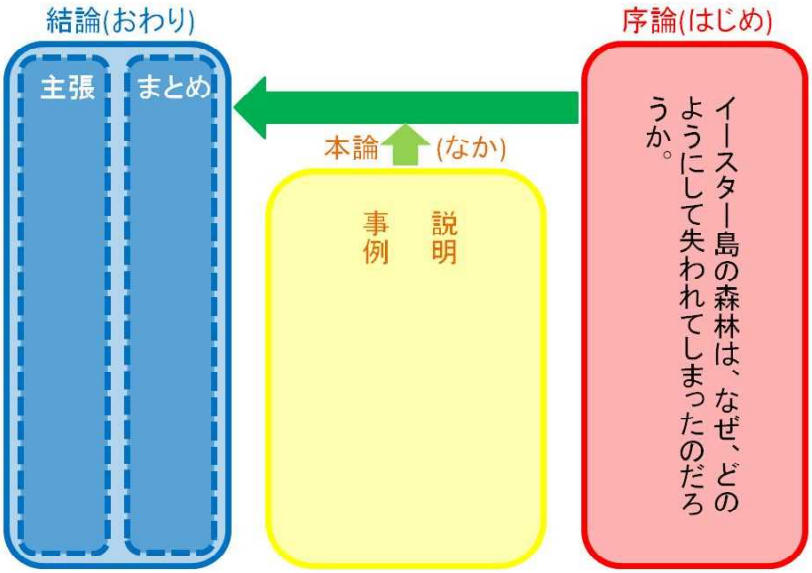
また、「結論」には、「まとめ(問いに対する答え)」が含まれる。文章によっては「筆者の主張」が含まれることもある。

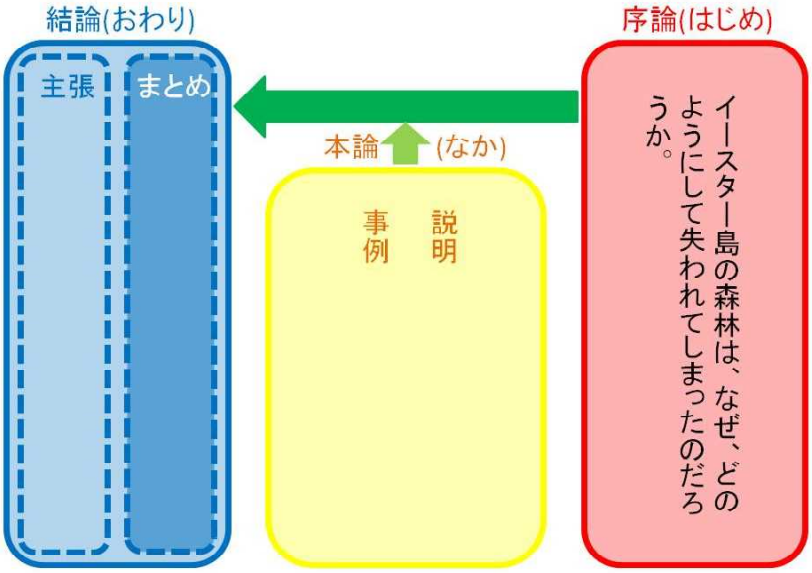


指導書は、㉕がまとめで㉖㉗が主張という立場。私は、㉑がまとめで㉒～㉗が主張という立場。――この立場の違いが、本論と結論の区切り方の違いになっている。

左の図はプレゼンのスライドで、授業では常時大型テレビに映しながら、色の濃くなっている部分の課題に取り組

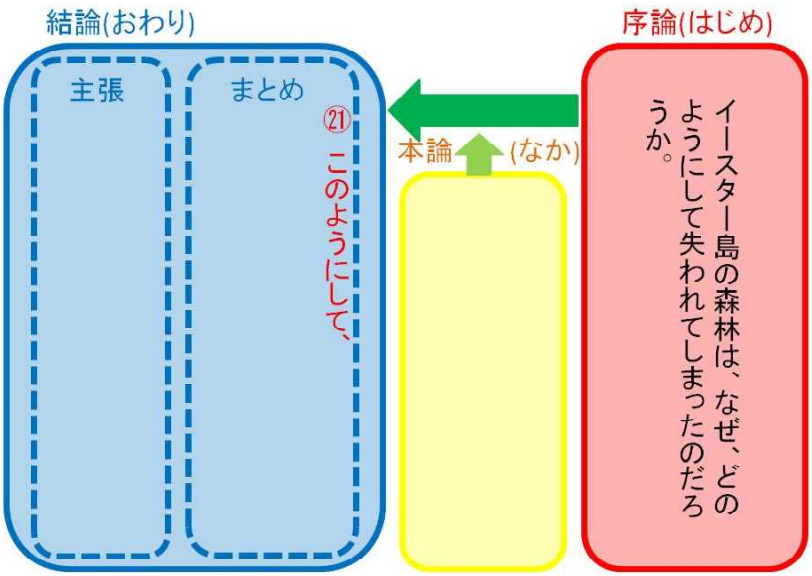


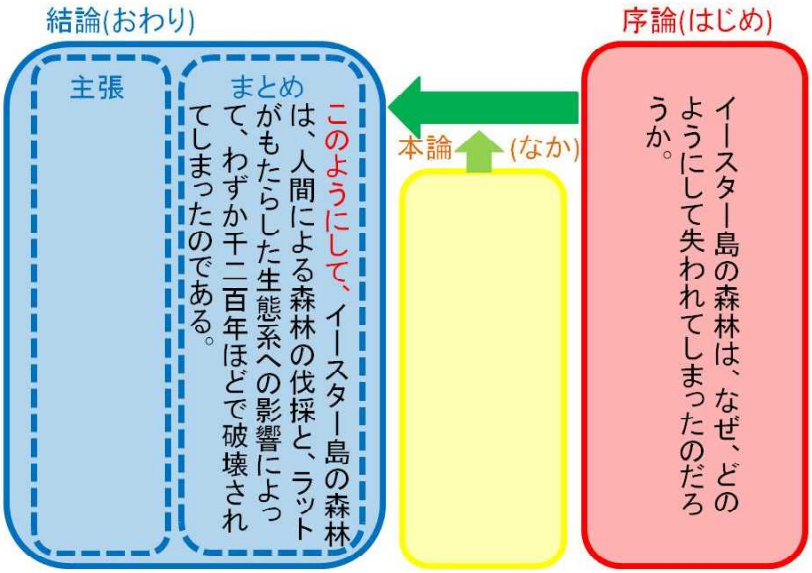


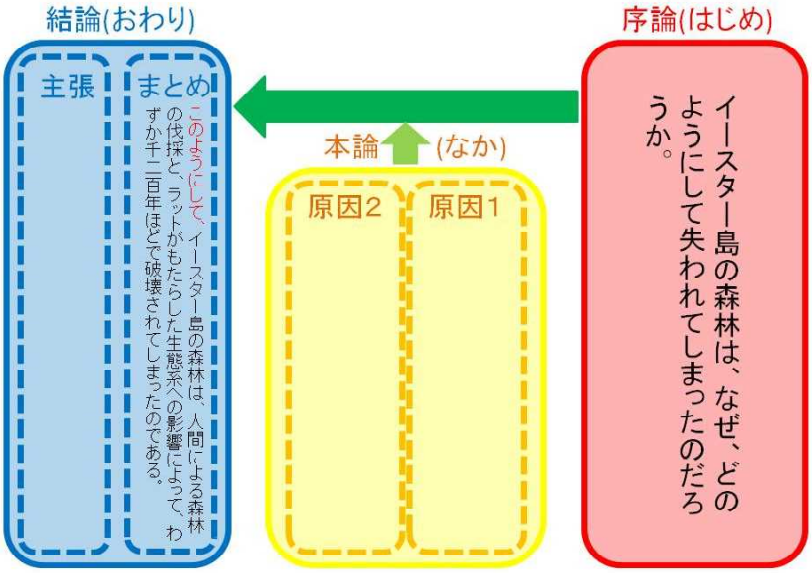


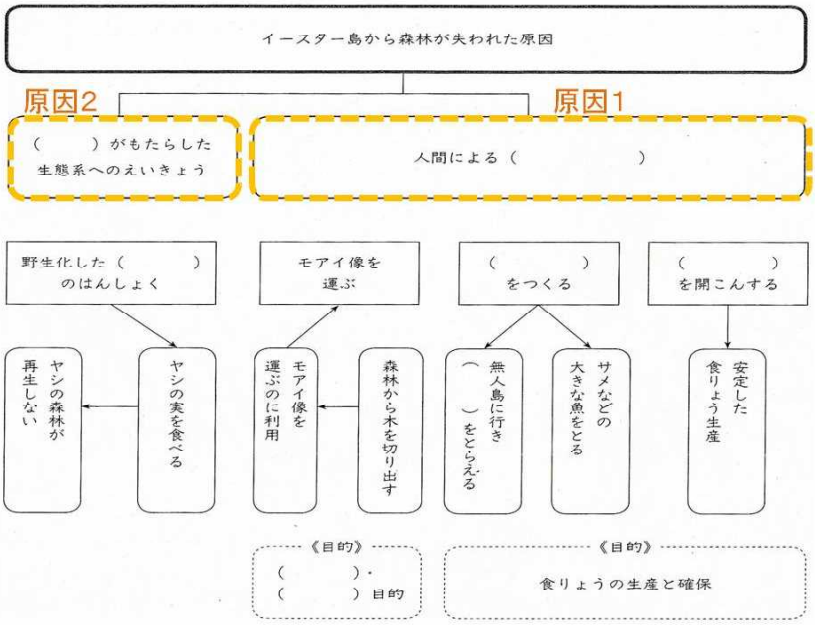
んでいるということを意識させた。

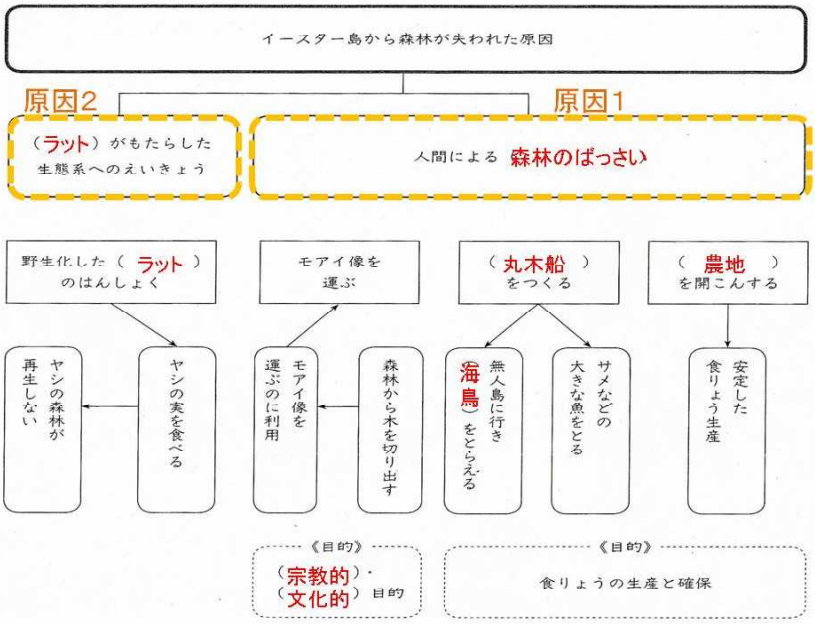
以下、読みの過程をスライドをもとに辿っていってほしい。

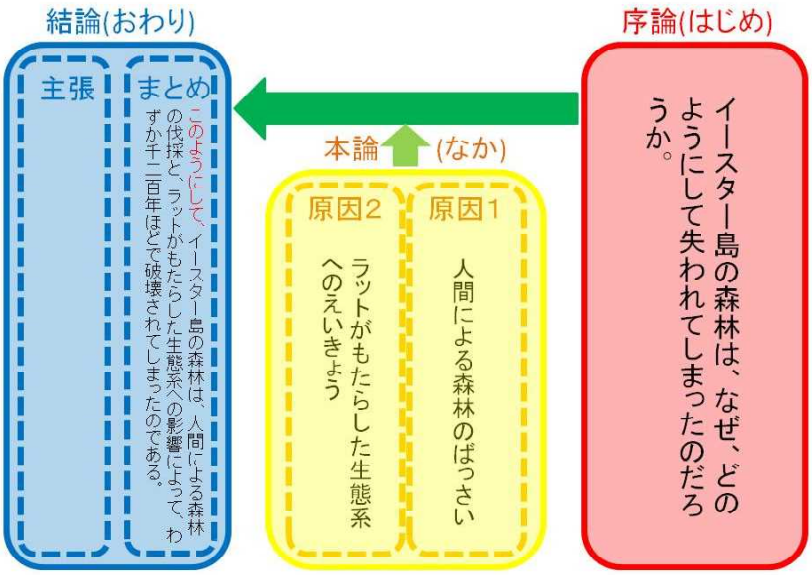

結論(おわり)
主張
まとめ
㉑ このようにして、
本論
(なか)
序論(はじめ)
イースター島の森林は、なぜ、どのようにして失われてしまったのだろうか。

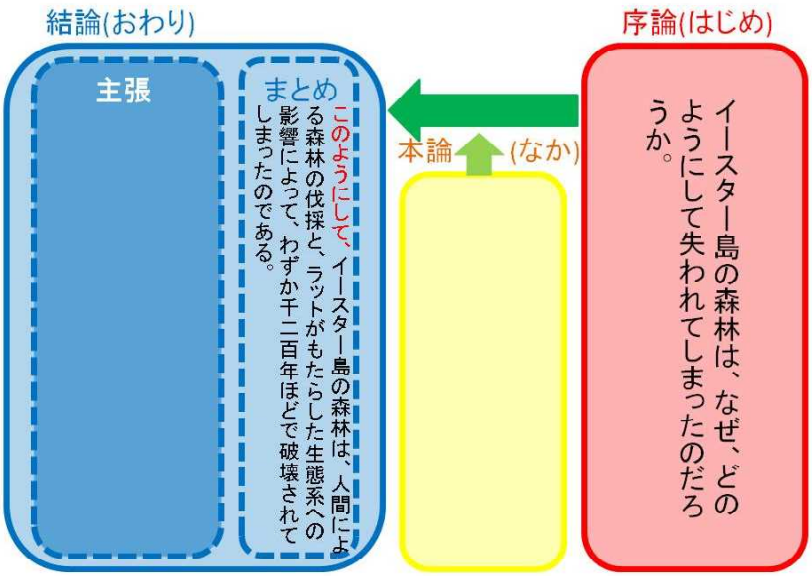

結論(おわり)
主張
まとめ
このようにして、イースター島の森林は、人間による森林の伐採と、ラットがもたらした生態系への影響によって、わずか千二百年ほどで破壊されてしまったのである。
本論
(なか)
序論(はじめ)
イースター島の森林は、なぜ、どのようにして失われてしまったのだろうか。

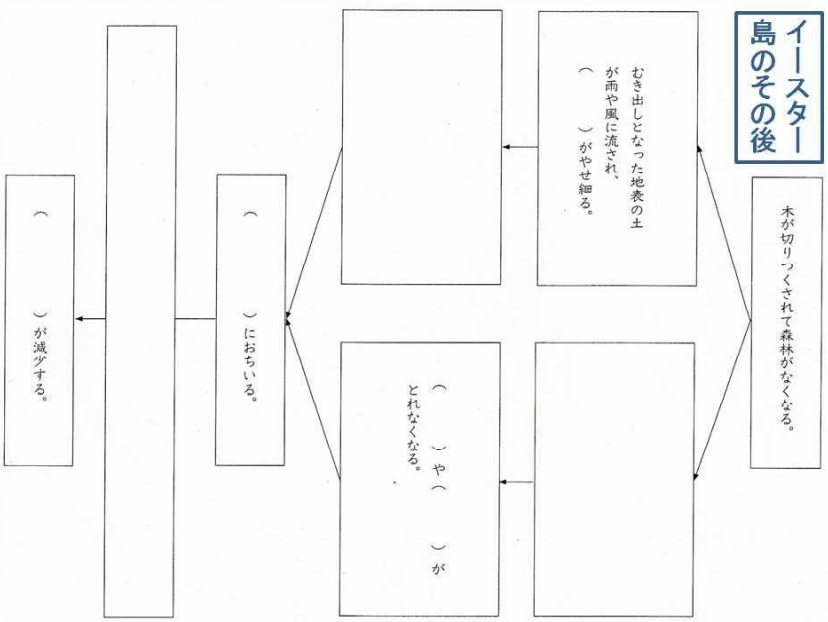

結論(おわり)
主張
まとめ
このようにして、イースター島の森林は、人間による森林の伐採と、ラットがもたらした生態系への影響によって、わずか千二百年ほどで破壊されてしまったのである。
本論
(なか)
原因2
原因1
序論(はじめ)
イースター島の森林は、なぜ、どのようにして失われてしまったのだろうか。

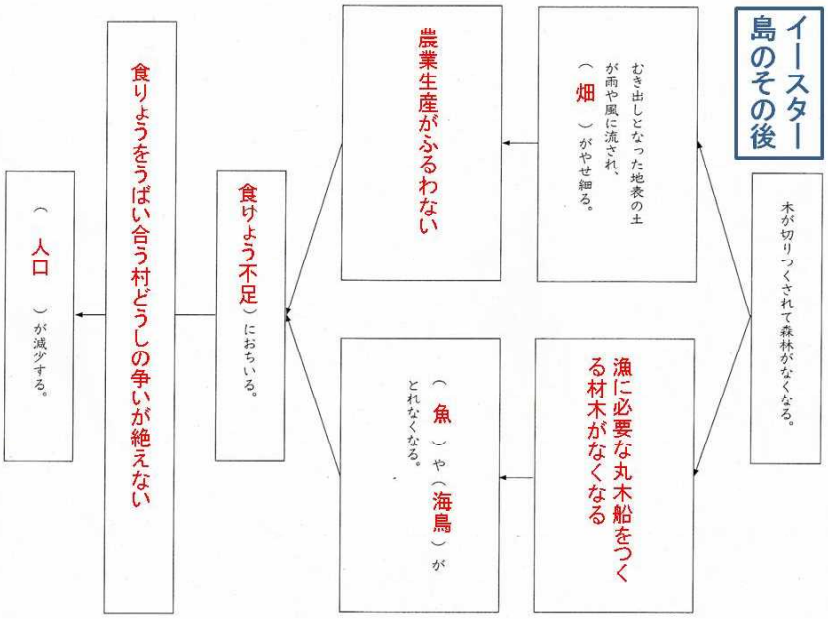

イースター島から森林が失われた原因
原因2
（　　）がもたらした生態系へのえいきょう
原因1
人間による（　　）
野生化した（　　）のはんしょく
モアイ像を運ぶ
（　　）をつくる
（　　）を開こんする
ヤシの森林が再生しない
ヤシの実を食べる
モアイ像を運ぶのに利用
森林から木を切り出す
無人島に行き（　　）をとらえる
サメなどの大きな魚をとる
安定した食りょう生産
《目的》
（　　）・（　　）目的
《目的》
食りょうの生産と確保


イースター島から森林が失われた原因
原因2
（ラット）がもたらした生態系へのえいきょう
原因1
人間による 森林のばっさい
野生化した（ ラット ）のはんしょく
モアイ像を運ぶ
（ 丸木船 ）をつくる
（ 農地 ）を開こんする
ヤシの森林が再生しない
ヤシの実を食べる
モアイ像を運ぶのに利用
森林から木を切り出す
無人島に行き（海鳥）をとらえる
サメなどの大きな魚をとる
安定した食りょう生産
《目的》
（宗教的）・（文化的）目的
《目的》
食りょうの生産と確保


結論(おわり)
主張
まとめ
このようにして、イースター島の森林は、人間による森林の伐採と、ラットがもたらした生態系への影響によって、わずか千二百年ほどで破壊されてしまったのである。
本論 (なか)
原因2
ラットがもたらした生態系へのえいきょう
原因1
人間による森林のばっさい
序論(はじめ)
イースター島の森林は、なぜ、どのようにして失われてしまったのだろうか。


序論(はじめ)
イースター島の森林は、なぜ、どのようにして失われてしまったのだろうか。
本論
(なか)
結論(おわり)
まとめ
このようにして、イースター島の森林は、人間による森林の伐採と、ラットがもたらした生態系への影響によって、わずか千二百年ほどで破壊されてしまったのである。
主張


イースター島のその後
木が切りつくされて森林がなくなる。
むき出しとなった地表の土が雨や風に流され、（　　）がやせ細る。
（　　）や（　　）がとれなくなる。
（　　）におちいる。
（　　）が減少する。


イースター島のその後
木が切りつくされて森林がなくなる。
むき出しとなった地表の土が雨や風に流され、（畑）がやせ細る。
漁に必要な丸木船をつくる材木がなくなる
農業生産がふるわない
（魚）や（海鳥）がとれなくなる。
食けよう不足）におちいる。
食りょうをうばい合う村どうしの争いが絶えない
（人口）が減少する。

イースター島の歴史から教えられること

主張

イースター島の歴史から教えられること

自然の利用方法をあやまり、健全な生態系をきずつければ、文化も心もあれ果て、悲惨できびしい運命をたどる。

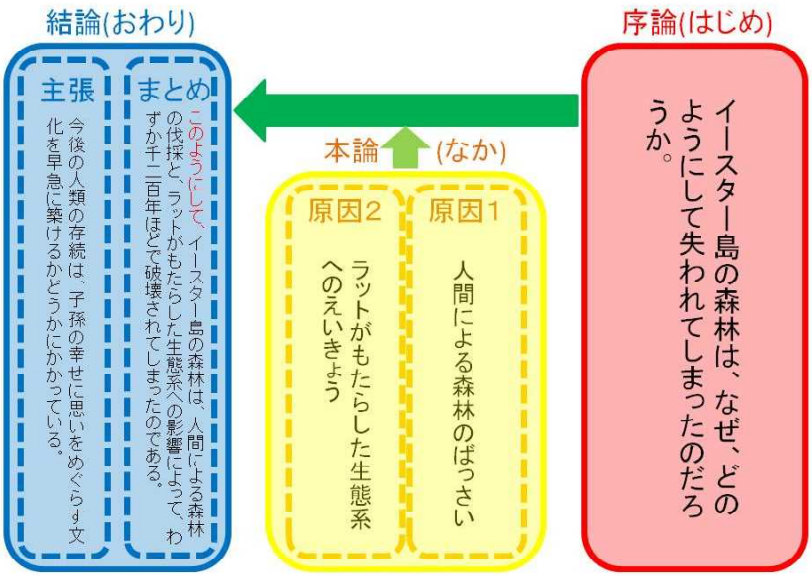
主張

イースター島の歴史から教えられること

自然の利用方法をあやまり、健全な生態系をきずつければ、文化も心もあれ果て、悲惨できびしい運命をたどる。

主張

今後の人類の存続は、子孫の幸せに思いをめぐらす文化を早急に築けるかどうかにかかっている。



私は、小学校の読みのキモは「三段構成」を子どもの中に定着させることだと考えている。それは、文学的な文章であれ説明的な文章であれ同様なのだが、とりわけ論理的な読みの力を育てることを主眼とする説明文では譲れないポイントだ。

ある力を子どもに定着させるには、繰り返し螺旋状に指導をしていくことが大事になってくる。Ａ教材で学んだ読みの力がＢ教材の読みに生かされないと本当の力と言えない。そのためには、「ものさし」が揃っている必要がある。どうしようもない教材ならともかく(そんな文章を教材として扱うことの是非は置くとして)、「三段構成」で説明できる本教材を、わざわざあのように区切る指導書氏の意図が読めない。

この教材が１５年度教科書に残ったかどうかも確認していないし、東書以外の教科書地域にはハナから無関係なのだが、伝えたいのはそんなケチな話ではない。この教材分析の手法、フォーマットが、自分でいうのも変だがなかなか便利で、他の教材に生かせると考える次第である。次の機会に是非試していただきたい。